

## 第14回 茨城県少子化対策審議会 開催結果について

- 1 日時 令和6年2月8日（木）10：00～12：00
- 2 場所 茨城教育会館3階会議室
- 3 出席者 審議会委員13名（欠席5名）※別添名簿参照  
事務局（県）川和田子ども政策局長、楊箸少子化対策課長  
長島子ども未来課長、今泉青少年課長ほか

### 4 結果

番号	事項	結果
議事(1) 議事(2)	・少子化対策をめぐる最近の動向について ・「茨城県次世代育成プラン」令和4年度実施状況評価について	・事務局説明の後、審議を実施したところ、各委員より少子化対策について活発に意見発言があった。
報告	・こども基本法の施行をふまえた今後の対応について	・こども基本法・こども大綱・こども未来戦略の概要と茨城県こども計画（仮称）策定スケジュールを報告した。

### 5 委員の発言要旨（主なもの）

- AI マッチングシステムは母数が増えると、組合せの数が増えるので、おのずとマッチングの率が上がると考えられる。  
マッチングシステムの周知方法としては、案内メールを各個人に職場で流してもらった方がいいのではないか。
- 保育園に、二人目以降を預けると、上の子が行っている保育園には下の子が預けられない等の隠れ待機児童にメスを入れて欲しい。  
隠れ待機児童解消等の一歩進んだ取組は、2人目の出産や、あるいは若者が結婚することに躊躇がなくなることに繋がると思う。
- 保育士の給与や待遇については、県独自で行うということより、国に対する要望を県が率先してやっていくことが必要。
- 出生数を増やすため、未婚の方への働きかけが今後大事になってくると思うので、若いうちから子供に触れてもらう機会があまりないのであれば、赤ちゃんふれあい事業はすごく良い事業だと思う。

- ペアレントトレーニング以外の様々なプログラムを指標に取り入れる等考えてもらえると良い。
- 目標数が達成してしまっている指標は、目標の立て方を変更してもよいのではないか。対外的に、どうしたらより良くなるのかが分かる指標だといいい。
- 今までは、子どもがいる人たちにワークライフバランスができる配慮や、両立支援をする動きがあったが、未婚者にしわよせが来たら、子どもは産まれない。今の働き方改革の焦点は、誰でもワークライフバランスという意識が大事。